

---

# Wake Up

shamu

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Wake Up

### 【コード】

N4984J

### 【作者名】

shamu

### 【あらすじ】

夜體やるしか鹿学園

日本有数のヤンキー高校  
多くの生徒が頂点に立つために奮闘しているが・・・惜しくも取れ  
ずに卒業していった者も数知れず。

そんな街に

新たな風がやってきた。

## プロローグ 帰郷（前書き）

最初から作り直すことに  
しました。

読者の皆さんすみません。

## プロローグ 帰郷

「はぁ…この街に戻ってくるのは四年ぶりか…」

俺は車の中から外の景色を見ながら過去を振り返り、深いため息をついた。

この地では全くもっていい記憶など存在しない。

だからこの街に帰ってきたくなかったんだ。

しかし、夕日はそんな俺を励ますかのように茜色の光を放っていた。

とても綺麗だった…。

そんなこんなで

夕日を眺めているうちに引越し先のマンションに着いた。

「もう着いたのか。」

時間の長さが短く感じた瞬間だった。

父

「聖磨、早く荷物を降ろして部屋作りをしとけ。

明日から俺たちが出会った学校に通うんだからな。」

俺は冷たい眼を父に向け、

「もう母さんとの出会い話はいいよ……」  
俺、父さんみたいに学校の頂点を狙わないから。」

父

「あの学校に行ってたら、嫌でも喧嘩しないといけなくなるぞ。  
勝てば勝つほどな……。まあ頑張れな。」

俺は素早く車から降り、

「喧嘩なんてしないよ。

俺は自分が何をすべきか、探しに行くんだ。」  
降りた瞬間、家を見る。

家は昔と変わらないままの状態だ。

築20年だが古い印象はないくらいきれいに見える。

早速二階に上がりてきばきと片付けを始める。  
そして、今日は早く寢床についた。

明日から始まる

学校生活に不安もなく……

## プロローグ 帰郷（後書き）

主人公の過去は……この小説を書き終えたあと番外編を書くつもりです。

皆さん楽しみに待っていてくださいね

## 登場人物紹介

多田聖磨

クールで成績優秀だが、

喧嘩がとても強い。

しかし、過去の事件で

トラウマになり喧嘩をするのが嫌になった

平崎鷹人

真面目で納得しないことは最後までやり通すタイプ。喧嘩をする理由がないと

喧嘩しない。

白神柊二  
フアイ

楽天的だがリーダーシップがあり頼りにされる男。

一年でトップの実力を持ち自らを

「全ての頂点に立つ男」と自負する。

月野麻衣

聖磨の幼なじみ。

明るく、自分の意見を最後まで貫くタイプ。

聖磨の前だと素直になれず、喧嘩に発展してしまっ。

## 第一勝 ヤバイ高校

そして・・・翌日

とてもいい目覚めだった。

俺は少しデカイ制服を着て学校に行く準備をした。

リビングに入って

出来立ての朝食を食べはじめた。

ガチャツと鳴る音がした。母が玄関まで父を見送りに行ったのだろう・・・

7

母

「おはよう、聖磨。

父さんが言ってたわよ。

後悔だけはするなって。

私も父さんと同じように、友達いらなんて言うてはいけないわ。

」

「無理だな・・・。

俺はこの街が嫌いなんだ。ここは俺が住むべき

世界じゃないんだ。

「ごちそうさま……」  
「じゃあ、行ってきます。」

母は心配そうな顔をして  
いつてらっしゃいと俺に  
聞こえないのに言った。

俺は家を出るなり、知らない間に走っていた。過去のことフラッシュバックしてしまうと無造作に走り出してしまう癖だ。

学校までの道程は覚えていたが、いつのまにか  
学校の正門に着いていた。

ホントに学校なのか疑う程学校は荒れていた。

柵を飛び越え進み出した。

ちょうどヤンキー達が喧嘩を始めようとしている。

俺は少し見ることにした。

白神

「先輩何の用すつか？  
もうHR始まりますよ。」

一人のヤンキーが前に出て

「もうお前の情報は全部

知れ渡ってんだよ!!

中学で有名か知らねえが、調子こいてんじゃねえよ。ぶっ殺してやる。」

一年生と思われる少年は両手にグローブをはめ

「あゝバレちゃった。楽に生活したかったのに早く終わらせて屋上で暇を潰すでしょう。」

ヤンキー五人が襲い掛かってきたが一年生と思われる少年は立ち尽くしたまま

カウンターパンチで上級生を簡単に倒してしまった。

「じゃあ約束通り!貰っていきますよ一万円。」

「うっ・・・」

俺たちを倒したからって

いい気になるんじゃねえぞガキ。」

「ははっ。

俺は誰にも負けるつもりありませんよ。

でも、もし負けた場合はそいつが俺よりも優れた

特別な人間ですよ・・・」  
そう言い残し少年は学校の中に入っていった。

俺も初登校の日で遅れる訳にはいかないので急いで学校の中に入った。

俺は職員室でクラスの担任から学校の校則等聞いて、今クラスに向かっている。

しかし、この担任苦手だ。

優柔不断で挙動不審。

説教もできない小心者だ。

学校が荒れてるのはこんな先生が多いからなのかと疑問に思った。

クラスに着き、先生に少し待っててくださいと言われ一人淋しく廊下に残った。

この時間の間にも

意識もしてない緊張が

だんだん募ってきた。

そして先生と呼ばれ、俺は一年A組のドアを引いた。

T o b e c o n t i n u e d

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4984j/>

---

Wake Up

2010年10月9日07時08分発行